

高温に対応した 水稲の栽培管理について

7月の高温により、早期・早植栽培の「コシヒカリ」、「彩のきずな」の出穂が非常に早まっています。

7月26日気象庁発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高い確率が60%となっています。

気温が高いと水稲の登熟が早く進行し、刈り遅れによる品質低下が懸念されますので、以下の対策を必ず実施しましょう。

また、水資源は貴重です。用水は有効に活用しましょう。

1 水稲の生育状況

作 型	生 育 状 況
早期栽培 (4月下旬～5月上旬植え)	出穂は平年より3～6日早まりました。 中早生種では登熟中期を迎えています。 刈り遅れにならないように注意してください。
早植栽培 (5月中下旬植え)	出穂は平年より3～4日早まりました。 中早生種では穂揃い期～登熟初期を迎えています。 適正な水管理により、幼穂の保護と根の活力維持に努めてください。

※ 中早生種 : コシヒカリ、キヌヒカリ、彩のきずな

**出穂後20日間は
気温に注意！！**

2 今後の技術対策

(1) 水管理

- ✓ 出穂後20日間は高温による白未熟粒発生の危険時期です。
- ✓ 出穂期前後各1週間は幼穂保護のため、深水管理とします。その後は間断かん水を行い、根の活力維持に努めてください。
- ✓ 間断かん水は3～4日おきに入落水を繰り返します。水はけの悪いほ場では、排水口を開けて強制的に落水し、2～3日田面を露出させましょう。
- ✓ 早期落水は、品質低下を助長します。落水は極力出穂後30日経過してから行いましょう。

(2) 適期刈取り

- ✓ 本年は出穂がばらつき、適期の判断が難しくなっています。
- ✓ 出穂後の高温により胴割米発生の危険性が高まっています。刈り遅れは胴割米の発生をさらに助長します。
- ✓ 高温登熟では、刈取適期が前進するので、登熟積算気温を参考に早目の刈取りに心掛けましょう。
- ✓ 高温登熟では帯緑籾の減少が玄米の成熟よりも遅れ、青籾が残りやすいので刈り遅れないよう注意しましょう。

※登熟積算気温とは：出穂期以降の日々の日平均気温を合計した数字。今年の実況については各農林振興センター農業支援部にお問い合わせください。

品種名	登熟積算気温
コシヒカリ	早期 950～1150℃
彩のきずな	早植 900～1200℃
	普通 900～1100℃
キヌヒカリ	早植 980～1180℃
	普通 920～1050℃

**こまめな水分補給と朝夕の涼しい時間での作業を心掛け、
熱中症を予防しましょう！**

